

令和2年度第1回新見市水道事業運営審議会資料

令和2年10月28日

令和2年度 第1回新見市水道事業運営審議会



新見市建設部上水道課

本日の審議内容

1. 令和元年度決算の概要について
 - 1 - 1. 水道事業会計決算の概要 P 2
 - 1 - 2. 簡易水道事業特別会計決算の概要 P 5
2. 過去3か年の収支予測と実績（決算）の比較について
 - 2 - 1. 水道事業会計の収支予測と実績（決算） P 9
 - 2 - 2. 簡易水道事業特別会計の収支予測と実績（決算） . . . P 10
3. 経営分析について
 - 3 - 1. 経営指標について P 12
 - 3 - 2. 水道事業の経営指標 P 13
 - 3 - 3. 簡易水道事業の経営指標 P 15
4. 令和2年度の主な事業の概要について P 18

1. 令和元年度決算の概要について

1 - 1. 水道事業会計決算の概要



1 - 1 - 1. 収益的収支【対前年度】

●収益的収支前年度比較①

(単位：百万円)

区分	科 目	H 3 0	R 1	増減
収入	1 営業収益	294	295	1
	(1) 給水収益	293	294	1
	(2) その他	1	1	0
	2 営業外収益	86	83	▲ 3
	(1) 他会計繰入金	17	3	▲ 14
	(2) 長期前受金戻入	64	74	10
	(3) 国・県補助金	4	4	0
	(4) その他	1	2	1
	3 特別利益	0	0	0
	計 (A)	380	378	▲ 2

●収益的収支前年度比較②

(単位：百万円)

区分	科 目	H 3 0	R 1	増減
支出	1 営業費用	293	299	6
	(1) 人件費	41	39	▲ 2
	(2) 委託料	55	52	▲ 3
	(3) 動力費	22	21	▲ 1
	(4) 修繕費	16	10	▲ 6
	(5) 減価償却費	131	144	13
	(6) その他	28	33	5
	2 営業外費用	14	12	▲ 2
	計 (B)	307	311	4
	純利益 (A - B)	73	67	▲ 6

() は前年度比

収入

- ・災害復旧事業費の減額による他会計繰入金の減 (▲ 1 4 百万円)
 - ・唐松・長屋簡易水道の未計上資産の計上による長期前受金戻入の増 (+ 1 0 百万円)
- ⇒ **合計 3 7 8 百万円 (▲ 2 百万円)**

支出

- ・唐松・長屋簡易水道の未計上資産の計上による減価償却費の増 (+ 1 3 百万円)
 - ・浄水設備及び給配水管の修繕費の減額による修繕費の減 (▲ 6 百万円)
- ⇒ **合計 3 1 1 百万円 (+ 4 百万円)**

純利益
(収入 - 支出)

6 7 百万円
(▲ 6 百万円)

1-1-2. 資本的収支【対前年度】

●資本的収支前年度比較

(単位：百万円)

区分	科 目	H 3 0	R 1	増減
収入	1 企業債	0	95	95
	2 国・県補助金	20	19	▲ 1
	3 他会計補助金	4	2	▲ 2
	4 その他	6	10	4
	計 (A)	30	126	96
支出	1 建設改良費	159	240	81
	2 企業債償還金	64	62	▲ 2
	計 (B)	223	302	79
収支不足額 (C = B - A)		193	176	▲ 17

●建設改良費内訳

(単位：百万円)

科 目	H 3 0	R 1	増減
(1) 配水設備費	12	12	0
(2) 浄水設備費	142	226	84
(3) 営業設備費	1	2	1
(4) 固定資産購入費	4	0	▲ 4
(5) 災害復旧事業費	0	0	0
(6) その他	0	0	0
計	159	240	81

●企業債残高前年度比較

科 目	H 3 0	R 1	増減
企業債残高	448	481	33

() は前年度比

収入

・建設改良費（電気計装設備更新など）の増額による企業債の増
（+ 9 5 百万円）
⇒ **合計 1 2 6 百万円（+ 9 6 百万円）**

支出

・浄水設備費（電気計装設備更新など）の増額による建設改良費
の増（+ 8 1 百万円）
⇒ **合計 3 0 2 百万円（+ 7 9 百万円）**

**収支不足額
（収入 - 支出）**

1 7 6 百万円
（▲ 1 7 百万円）

1. 令和元年度決算の概要について
- 1 - 2. 簡易水道事業特別会計決算の概要



1-2-1. 収益的収支【対前年度】

●収益的収支前年度比較①

(単位：百万円)

区分	科目	H30	R1	増減
収入	1 営業収益	214	211	▲3
	(1) 給水収益	213	211	▲2
	(2) その他	1	0	▲1
	2 営業外収益	290	191	▲99
	(1) 他会計繰入金	237	182	▲55
	(2) 長期前受金戻入	0	0	0
	(3) 国・県補助金	44	0	▲44
	(4) その他	9	9	0
	3 特別利益	0	0	0
		計(A)	504	402

●収益的収支前年度比較②

(単位：百万円)

区分	科目	H30	R1	増減	
支出	1 営業費用	424	333	▲91	
	(1) 人件費	37	33	▲4	
	(2) 委託料	106	96	▲10	
	(3) 動力費	1	0	▲1	
	(4) 修繕費	87	90	3	
	(5) 減価償却費	0	0	0	
	(6) その他	193	114	▲79	
	2 営業外費用	72	69	▲3	
		計(B)	496	402	▲94
		純利益(A-B)	8	0	▲8

() は前年度比

収入

- ・災害復旧事業費の減額による他会計繰入金 (▲55百万円) 及び国・県補助金 (▲44百万円) の減
⇒ **合計402百万円 (▲102百万円)**

支出

- ・簡易水道統合による簡易水道法適化業務等の委託料の減 (▲10百万円)
・災害復旧事業費の減額によるその他の減 (▲79百万円)
⇒ **合計402百万円 (▲94百万円)**

純利益
(収入 - 支出)

0百万円
(▲8百万円)

1 - 2 - 2. 資本的収支【対前年度】

●資本的収支前年度比較

(単位：百万円)

区分	科 目	H 3 0	R 1	増減
収入	1 企業債	333	92	▲ 241
	2 国・県補助金	161	0	▲ 161
	3 他会計補助金	321	338	17
	4 その他	15	10	▲ 5
	計 (A)	830	440	▲ 390
支出	1 建設改良費	514	125	▲ 389
	2 企業債償還金	313	333	20
	計 (B)	827	458	▲ 369
収支不足額 (C = B - A)		▲ 3	18	21

●建設改良費内訳

(単位：百万円)

科 目	H 3 0	R 1	増減
(1) 配水設備費	37	37	0
(2) 浄水設備費	459	85	▲ 374
(3) 営業設備費	0	0	0
(4) 固定資産購入費	0	0	0
(5) 災害復旧事業費	0	0	0
(6) その他	18	3	▲ 15
計	514	125	▲ 389

●企業債残高前年度比較

科 目	H 3 0	R 1	増減
企業債残高	4,437	4,196	▲ 241

() は前年度比

収入

・建設改良事業の減少による企業債 (▲ 241百万円) 及び
国・県補助金 (▲ 161百万円) の減
⇒ **合計440百万円 (▲ 390百万円)**

支出

・浄水設備工事の減額による建設改良費の減 (▲ 389百万円)
⇒ **合計458百万円 (▲ 369百万円)**

**収支不足額
(収入 - 支出)**

18百万円
(+ 21百万円)

2. 過去3か年の収支予測と実績（決算） の比較について



2-1. 水道事業会計の収支予測と実績（決算）

(単位：百万円)

区 分		H 2 9	H 3 0	R 1	
収益的 収支	収入	シミュレーション額 (A)	340	320	319
		決算額 (B)	340	380	378
		差 (B - A)	0	60	59
	支出	シミュレーション額 (A)	263	272	274
		決算額 (B)	263	307	311
		差 (B - A)	0	35	37
	純 利益	シミュレーション額 (A)	77	48	45
		決算額 (B)	77	73	67
		差 (B - A)	0	25	22
資本的 収支	収入	シミュレーション額 (A)	29	7	142
		決算額 (B)	29	30	126
		差 (B - A)	0	23	▲ 16
	支出	シミュレーション額 (A)	216	256	212
		決算額 (B)	216	223	302
		差 (B - A)	0	▲ 33	90
	不 足 額	シミュレーション額 (A)	▲ 187	▲ 249	▲ 70
		決算額 (B)	▲ 187	▲ 193	▲ 176
		差 (B - A)	0	56	▲ 106
企業債残高	シミュレーション額 (A)	512	448	521	
	決算額 (B)	512	448	481	
	差 (B - A)	0	0	▲ 40	

(単位：百万円)

区 分		H 2 9	H 3 0	R 1
現金及び 預金	シミュレーション額 (A)	1,122	997	1,053
	決算額 (B)	1,122	1,053	1,031
	差 (B - A)	0	56	▲ 22

【収益的収支】

- ・純利益はプラスで推移（+ 2 5 百万円、+ 2 2 百万円）
→唐松・長屋簡易水道が上水道に統合（H 3 0）により給水収益が増加

【資本的収支】

- ・収支不足のR 1はマイナス（▲ 1 0 6 百万円）
→浄水設備費の増額（H30馬塚浄水場設備更新の繰越）のため

【企業債残高】

- ・企業債残高のR 1はマイナス（▲ 4 0 百万円）
→建設改良のための企業債が減少（現金及び預金より支出）したため

【現金及び預金】

- ・現金及び預金のR 1はマイナス（▲ 2 2 百万円）
→建設改良費に充当したため（企業債残高は減少）

2-2. 簡易水道事業特別会計の収支予測と実績（決算）

（単位：百万円）

区 分		H 2 9	H 3 0	R 1	
収益的収支	収入	シミュレーション額（A）	366	283	275
		決算額（B）	366	504	402
		差（B - A）	0	221	127
	支出	シミュレーション額（A）	379	353	347
		決算額（B）	379	496	402
		差（B - A）	0	143	55
	純利益	シミュレーション額（A）	▲ 13	▲ 70	▲ 72
		決算額（B）	▲ 13	8	0
		差（B - A）	0	78	72
資本的収支	収入	シミュレーション額（A）	852	938	807
		決算額（B）	852	830	440
		差（B - A）	0	▲ 108	▲ 367
	支出	シミュレーション額（A）	827	924	795
		決算額（B）	827	827	458
		差（B - A）	0	▲ 97	▲ 337
	不足額	シミュレーション額（A）	25	14	12
		決算額（B）	25	3	▲ 18
		差（B - A）	0	▲ 11	▲ 30
企業債残高	シミュレーション額（A）	4,380	4,428	4,399	
	決算額（B）	4,380	4,437	4,196	
	差（B - A）	0	9	▲ 203	

（単位：百万円）

区 分		決算額
水道事業に 引き継がれるもの	剰余金（収入）	116
	繰越事業費（収入・支出）	37
	未収金（収入）	325
	未払金（支出）	363

【収益的収支】

- ・純利益はプラスで推移（+ 7 8百万円、+ 7 2百万円）
→一般会計繰入金（基準外）によるもの

【資本的収支】

- ・収支不足はマイナスで推移（▲ 1 1百万円、▲ 3 0百万円）
→R 1は、打ち切り決算及び事業の繰越により事業費が減少

【企業債残高】

- ・企業債残高のR 1はマイナス（▲ 2 0 3百万円）
→未収金（企業債1 9 9百万円）が水道事業に引き継がれる

【水道事業に引き継がれるもの】

- ・剰余金 + 未収金 - 未払金 = 7 8百万円

3. 経営分析について



3-1. 経営指標について

指標	計算式	指標の意味
① 経常収支比率 ※法適用（水道事業）	経常収益／経常費用×100	給水収益や一般会計からの繰入金等の収益で、維持管理費や支払利息等の費用をどの程度賄えているかを表す指標
① 収益的収支比率 ※法非適用（簡易水道事業）	総収益／（総費用＋地方債償還金）×100	給水収益や一般会計からの繰入金等の総収益で、総費用に地方債償還金を加えた額をどの程度賄えているかを表す指標
② 累積欠損金比率	当年度未処理欠損金／（営業収益－受託工事収益）×100	営業収益に対する累積欠損金（営業活動により生じた損失で、前年度からの繰越利益剰余金等でも補填することができず、複数年度にわたって累積した損失のこと）の状況を表す指標
③ 流動比率	流動資産／流動負債×100	短期的な債務に対する支払能力を表す指標
④ 企業債残高対給水収益比率	企業債現在高／給水収益×100	給水収益に対する企業債残高の割合であり、企業債残高の規模を表す指標
⑤ 料金回収率	供給単価／給水原価×100	給水に係る費用が、どの程度給水収益で賄えているかを表した指標
⑥ 給水原価	（経常費用－受託工事費等（※1）－長期前受金戻入）／年間総有収水量	有収水量1m ³ 当たりについて、どれだけの費用がかかっているかを表す指標
⑦ 施設利用率	一日平均配水量／一日配水能力×100	一日配水能力に対する一日平均配水量の割合であり、施設の利用状況や適正規模を判断する指標
⑧ 有収率	年間総有収水量／年間総配水量×100	施設の稼働が収益に繋がっているかを判断する指標

※1 受託工事費等＝受託工事費＋材料及び不用品売却原価＋附帯事業費

3 - 2 - 1. 水道事業の経営指標

指標	計算式	H29	H30	R1	平均値 (H30)		基準	
					類似団体 (※2)	全 国		
経営 の 健全性 ・ 効率性	①経常収支比率	経常収益／経常費用×100	129.47	123.79	121.58	108.76	112.83	100以上
	②累積欠損金比率	当年度未処理欠損金／（営業収益－ 受託工事収益）×100	0.00	0.00	0.00	7.48	1.05	0
	③流動比率	流動資産／流動負債×100	906.92	1,133.09	1,147.06	359.70	261.93	100以上
	④企業債残高対 給水収益比率	企業債現在高／給水収益×100	181.38	152.76	163.64	447.01	270.46	
	⑤料金回収率	供給単価／給水原価×100	133.08	120.99	124.28	95.81	103.91	100以上
	⑥給水原価	（経常費用－受託工事費等（※1）－ 長期前受金戻入）／年間総有収水量	146.47	161.77	158.01	189.58	167.11	
	⑦施設利用率	一日平均配水量／一日配水能力×100	52.18	55.32	55.62	55.22	60.27	
	⑧有収率	年間総有収水量／年間総配水量×100	89.47	87.31	86.52	80.93	89.92	

※1 受託工事費等＝受託工事費＋材料及び不用品売却原価＋附帯事業費

※2 類似団体＝給水人口が2万人以上3万人以下の事業体

3 - 2 - 2. 水道事業の経営指標（総括）

- ① 経常収支比率は、単年度の黒字を示す100%以上で、全国平均・類似団体平均を上回っており、**収益性は良好**。
- ② 累積欠損金は、**発生していない**。
- ③ 流動比率は、100%以上で、全国平均・類似団体も大きく上回っており、**短期的な財務状況は良好**。
- ④ 企業債残高対給水収益比率は、全国平均・類似団体平均を下回っている（**良好である**）が、今後、給水収益の減少及び施設更新による企業債借入の増加のため、**比率は上昇する**と予測される。
- ⑤ 料金回収率は、100%以上で、全国平均・類似団体平均を上回っており、**収益性は良好**。
- ⑥ 給水原価は、類似団体平均と比較して**約30円安価**で、健全な経営に努めている。
- ⑦ 施設利用率は、唐松簡易水道・長屋簡易水道の上水道への統合により、類似団体平均を**上回っている**。引き続き、施設の統廃合等に取り組む。
- ⑧ 有収率は、類似団体平均を上回っているが、全国平均より低く、**低下傾向**である。引き続き漏水調査を実施し、有収率の向上を図る。

3 - 3 - 1. 簡易水道事業の経営指標

指標	計算式	H29	H30	R1	平均値 (H30)		基準	
					類似団体 (※2)	全 国		
経営 の 健全性 ・ 効率性	①収益的収支比率	総収益 / (総費用 + 地方債償還金) × 100	54.04	62.31	54.62	73.20	75.60	100以上
	②累積欠損金比率	当年度未処理欠損金 / (営業収益 - 受託工事収益) × 100	該当数値なし					0
	③流動比率	流動資産 / 流動負債 × 100	該当数値なし					100以上
	④企業債残高対 給水収益比率	企業債現在高 / 給水収益 × 100	1,871.25	2,079.65	1,986.75	995.48	1,074.14	
	⑤料金回収率	供給単価 / 給水原価 × 100	34.70	26.40	28.71	55.46	54.36	100以上
	⑥給水原価	(総費用 - 受託工事費 + 地方債償還金) / 年間総有収水量	444.23	611.39	560.06	299.78	296.40	
	⑦施設利用率	一日平均配水量 / 一日配水能力 × 100	76.47	73.17	68.89	59.59	55.95	
	⑧有収率	年間総有収水量 / 年間総配水量 × 100	70.51	69.12	70.87	74.19	73.77	

※1 受託工事費等 = 受託工事費 + 材料及び不用品売却原価 + 附帯事業費

※2 類似団体 = 給水人口が2万人以上3万人以下の事業体

3-3-2. 簡易水道事業の経営指標（総括）

- ① 収益的収支比率は、単年度の黒字を示す100%を大幅に下回っており、**一般会計繰入金などの割合が非常に高くなっている。**
- ④ 企業債残高対給水収益比率は、全国平均・類似団体平均を上回っており、今後も、給水収益の減少及び施設更新による企業債借入の増加のため、**比率はさらに上昇する**と予測される。
- ⑤ 料金回収率は、基準の100%を大幅に下回っており、**不足分を一般会計繰入金により補填している。**
- ⑥ 給水原価は、全国平均・類似団体平均を**大幅に上回っている**。また、近年は、440円程度で推移していたが、平成30年度の災害復旧による収益的支出の増加及び有収水量の減少により増加した。
- ⑦ 施設利用率は、全国平均・類似団体平均を上回っているが、**減少傾向にある**。
- ⑧ 有収率は、全国平均・類似団体平均を**下回っており**、引き続き、漏水調査を実施し、有収率の向上を図る。

4. 令和2年度の主な事業の概要 について



4. 令和2年度の主な事業概要について

【浄水場関係（電気関係）】（H30～R3）

- ・馬塚浄水場 電気計装設備更新（第2工区）工事

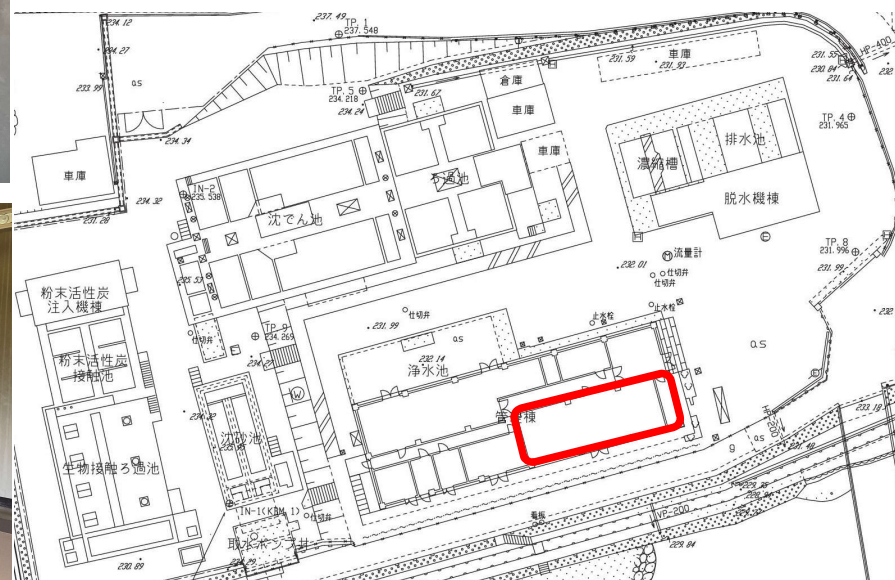
受電盤、主変圧器盤（改修前）



受電盤、主変圧器盤（改修中）



事業概要	受電盤 更新 一式 主変圧器盤 更新 一式 等
事業費	41,250万円 (R1～R3)



4. 令和2年度の主な事業概要について

【浄水場関係（機械関係）】（H28～R3）

- 馬塚浄水場 1系薬品沈殿池改修工事

1系薬品沈殿池
(改修前)



1系薬品沈殿池
(改修中)

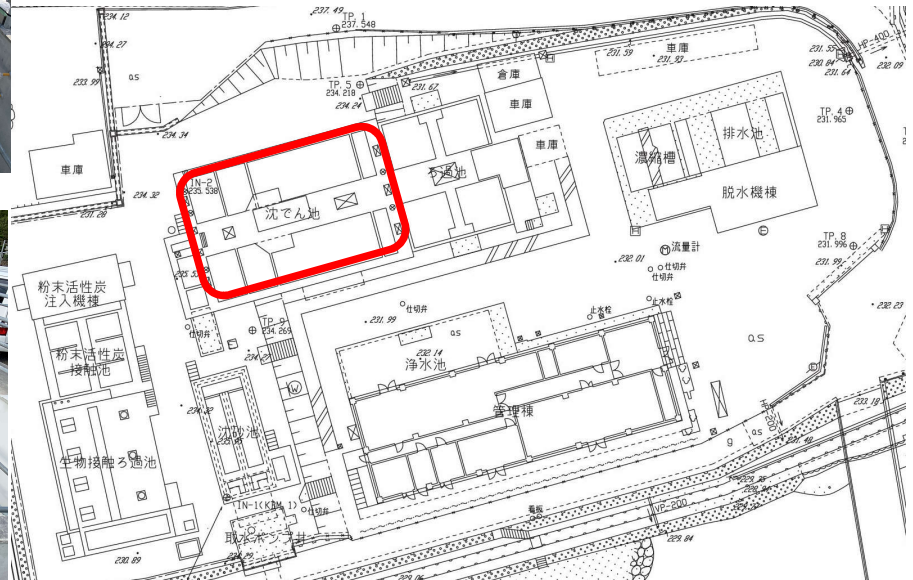


事業概要

横向流傾斜板（PET）3.5段×6列
沈殿池断面修復工471.4㎡

事業費

5,830万円（R2）



4. 令和2年度の主な事業概要について

【配水設備関係】

事業名	事業概要	事業費
新見駅西エリア整備事業に伴う配水管布設工事（繰越）	ビニル管φ75 L=195.8m	825万円
下熊谷簡易水道 配水管改良（第1工区）工事（繰越）	ビニル管φ100 L=343.5m	1,074万円
下熊谷配水区 配水管改良（第2工区）工事	ビニル管φ100 L=148.3m	924万円
高瀬簡易水道 老朽配水管改良（第3工区）工事（繰越）	ポリエチレン管φ75～φ150 L=375.7m	2,277万円
高瀬配水区 老朽配水管改良（第4工区）工事	ポリエチレン管φ150 L=453.6m	2,354万円
下熊谷配水区 統合整備工事	加圧ポンプ場築造 ポリエチレン管φ75 L=186.8m	2,134万円

【その他】

事業名	事業概要	事業費
上水道事業整備計画施設調査業務（委託）	施設調査業務 一式	990万円
城山及び石指山配水池更新に伴う基本設計業務（委託）	配水池基本設計 一式	770万円

用語の説明

収益的収支・・・経常的経営活動に伴って発生する収入とこれに対応する支出

資本的収支・・・将来の経営活動に備えて行う施設等の建設改良及び企業債に関する収入及び支出

長期前受金戻入・過去に交付された補助金等のうち、減価償却が必要な資産に充てたものについて、一旦、（勘定科目の）負債に「長期前受金」として計上・整理し、これにより取得した資産の減価償却に併せて、毎年度、減価償却相当額を収益として計上・処理するもの

減価償却・・・時間の経過や使用により価値が減少する固定資産を取得した際に、取得するための支払額をその耐用年数に応じて費用計上していく会計処理

企業債・・・地方公共団体が地方公営企業の建設、改良等に要する資金に充てるため起こす地方債

法適化・・・地方公営企業法の適用の略。法適化により、「経営、資産等の正確な把握による経営管理の向上」、「弾力的な経営を行うことが可能」などのメリットがある